

2 章

学習指導要領の内容（剣道）

1 発達段階に応じた指導内容の整理

① 技 能 — 質の高まり —

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年
技ができる楽しさを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。	技を高め勝敗を競う得意技を身に付けるこ

— 身に付けさせたい具体的な内容（動きの様相） —

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年
剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。	剣道では、相手の動きから、基本となる技や得えを崩し、しかけたり応展開すること。

② 態 度

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年
武道（剣道）に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。	武道（剣道）に自主的に手を尊重し、伝統的な行とすること、自己の責任どや、健康・安全を確保する。

③ 知識、思考・判断

中学校第 1 学年及び第 2 学年	中学校第 3 学年
武道（剣道）の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	伝統的な考え方、技方、体力の高め方、運し、自己の課題に応じたできるようにする。

※以下、「武道」を「武道（剣道）」と表記する。

『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省（平成20年9月）

高等学校入学年次	その次の年次以降
楽しさや喜びを味わい、 とができるようにする。	技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい得意技を用いた攻防が展開で きるようにする。

高等学校入学年次	その次の年次以降
の変化に応じた基本動作 意技を用いて、相手の構 じたりするなどの攻防を	剣道では、相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技を用いて、 相手の構えを崩し、素早くしかけたり応じたりするなどの攻防を展開する こと。

高等学校入学年次	その次の年次以降
に取り組むとともに、相 動の仕方を大切にしよう を果たそうとすることな することができるように	武道（剣道）に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行 動の仕方を大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任 を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるように する。

高等学校入学年次	その次の年次以降
の名称や見取り稽古の仕 動観察の方法などを理解 運動の取り組み方を工夫	伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題解 決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継 続するための取り組み方を工夫できるようにする。

2 剣道の指導目標・指導内容

① 技能

第1学年及び第2学年

相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。

第3学年

相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。

② 態度

第1学年及び第2学年

武道（剣道）に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなどの健康・安全に気を配ることができるようにする。

第3学年

武道（剣道）に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとして、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

③ 知識、思考・判断

第1学年及び第2学年

武道（剣道）の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

第3学年

伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

指導内容

『中学校学習指導要領解説 保健体育編（抜粋）』文部科学省（平成20年9月）

	第1学年及び第2学年	第3学年
技 能	相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防の展開 〔例示〕 ■基本動作 ・構えでは、相手の動きに応じて自然体で中段 ・体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足 ・基本打突の仕方と受け方では、中段の構えから体さばきを使って、面や胴や小手の部位を打ったり受けたりする ■基本となる技 ●しかけ技 <二段の技> ・小手一面 ・面一胴 <引き技> ・引き面 ・引き胴 ●応じ技 <抜き技> ・面抜き胴 ・小手抜き面	相手の動きの変化に応じた基本動作から基本となる技や得意技を用いて、相手を崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開 〔例示〕 ■基本動作 ・構えでは、相手の動きの変化に応じて自然体で中段 ・体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作 ・基本打突の仕方と受け方では、相手に対しての距離を近くしたり遠くしたりして打ったり、応じ技へ発展するよう受けたりする ■基本となる技 ●しかけ技 <二段の技（連続技）> ・小手一胴・面一面 <引き技> ・引き小手 <出ばな技> ・出ばな面 ・出ばな小手 <払い技> ・払い面 ・払い小手 ●応じ技 <すり上げ技> ・小手すり上げ面
態 度	●積極的に取り組む ●相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守る ●分担した役割を果たす ●禁じ技を用いないなど、健康・安全に気を配る	●自主的に取り組む ●相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にする ●自己の責任を果たす ●健康・安全を確保する
知 識	●武道（剣道）の特性や成り立ち ●伝統的な考え方 ●技の名称や行い方 ●関連して高まる体力	●技の名称と見取り稽古の仕方 ●体力の高め方 ●運動観察の方法
思 考・判 断	●課題に応じた運動の取り組み方を工夫 ・行い方のポイントを見つける ・課題に応じた練習方法を選ぶ ・分担した役割に応じた協力の仕方を見付ける ・学習した安全上の留意点を当てはめる	●自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫 ・自己の技能、体力に応じた得意技を見つける ・自己に適した攻防の仕方を選ぶ ・仲間と技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘 ・体調に応じて適切な練習方法を選ぶ ・継続して楽しむために、自己に適したかわり方を見付ける

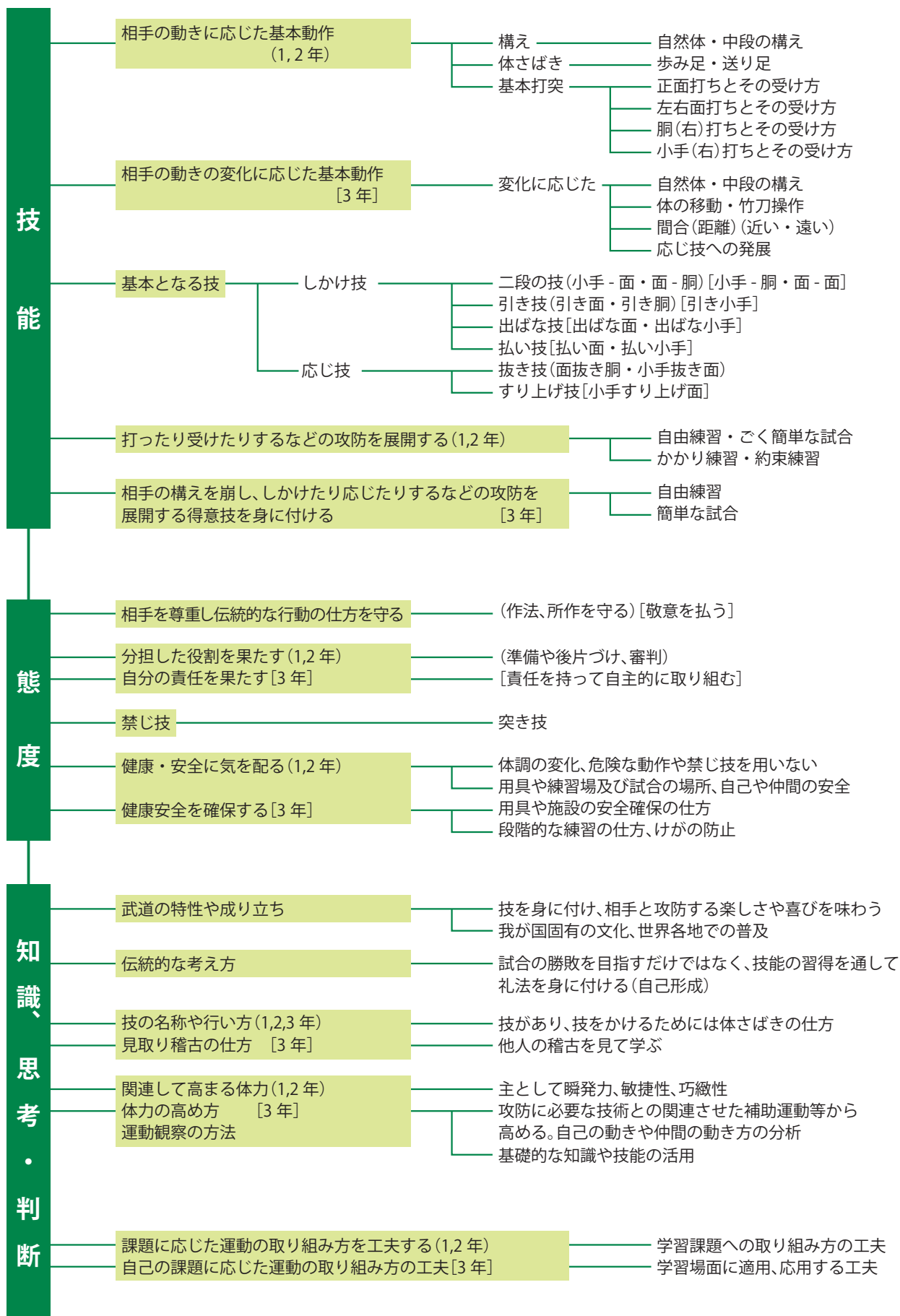
3 指導内容の技能について

（表 1）技能（●は例示されている動作や技、○は既出の動作や技）

			中学校 1・2 年	中学校 3 年・ 高校入学年次	高校その次の 年次以降
基本動作	構え	自然体 中段の構え	● ●	○ ○	○ ○
	体さばき	歩み足 送り足 体の移動 竹刀操作	● ●	○ ○ ● ●	○ ○ ○ ○
	基本打突の 仕方と受け	面 胴 小手 打突の受け方 間合の取り方 応じ技への受け	● ● ● ●	○ ○ ○ ○ ● ●	○ ○ ○ ○ ○ ○
基本となる技	しかけ技	二段の技	● ●	○ ○ ● ●	○ ○ ○ ○
		引き技	● ●	○ ○ ●	○ ○ ○
		出ばな技		● ●	○ ○
		払い技		● ●	○ ○ ●
	応じ技	抜き技	● ●	○ ○	○ ○
		すり上げ技		●	○ ●
		返し技			●
		打ち落とし技			●
得意技	体さばきを用いて 基本となる技を高めた技			●	○
攻防の展開	自由練習		●	○	○
	ごく簡単な試合		●	○	○
	簡単な試合			●	○

(表2) 中学校学習指導要領解説「保健体育編」武道(剣道)による学習内容

() 第1,2学年 [] 第3学年



※全日本剣道連盟「剣道授業事例集」作成部会による図式化

4 評価について

① 評価規準

■ 武道（剣道）〔第1学年及び第2学年〕

〔学習指導要領の内容〕

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。
- (2) 武道（剣道）に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。
- (3) 武道（剣道）の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

● 武道（剣道）の評価規準に盛り込むべき事項（平成23年11月：国立教育政策研究所教育課程研究センター）

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
武道（剣道）の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	武道（剣道）を心豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	武道（剣道）の特性に応じて、攻防を展開するための基本動作や基本となる技を身につけている。	武道（剣道）の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。

● 武道（剣道）の評価規準の設定例 ——— は、〔第3学年〕との比較部分

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
① 武道（剣道）の学習に <u>積極的に</u> 取り組もうとしている。（愛好） ② 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。（公正：自分を律する克己の心を表すものとしての礼儀） ③ <u>分担した役割</u> を果たそうとしている。（責任） ④ 仲間の学習を <u>援助しよう</u> としている。（協力） ⑤ 禁じ技を用いないなど健康・安全に留意している。（健康・安全）	① 技を身に付けるための <u>運動の行い方のポイント</u> を身につけている。 ② <u>課題に応じた練習方法</u> を選んでいる。 ③ 仲間と協力する場面で、 <u>分担した役割に応じた協力の仕方</u> を身につけている。 ④ 学習した <u>安全上の留意点</u> を他の練習場面に <u>当てはめて</u> いる。	① 相手の動きに応じた基本動作が出来る。 ・中段に構えること。 ・歩み足や送り足をする事 ・面や小手を打ったり受けたりすること。 ② 相手の動きに応じた基本動作が出来る。 ・胴を打ったり受けたりすること。 ③ 相手の動きに応じた <u>基本となる技</u> が出来る。 ・二段技（小手一面） ・引き技（引き面） ・抜き技（小手抜き面） ④ <u>相手の動きに応じた基本となる技</u> が出来る。 ・二段技（面一胴） ・引き技（引き胴） ・抜き技（面抜き胴）	① 剣道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ② 剣道の <u>伝統的な考え方について理解したことを言ったり書いたり</u> している。 ③ <u>技の名称や行い方について</u> 、学習した具体例を挙げている。 ④ 剣道に関連して <u>高まる体力について</u> 、学習した具体例を挙げている。 ⑤ 試合の行い方について学習した具体例を挙げている。

■武道（剣道）〔第3学年〕

〔学習指導要領の内容〕

(1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。

剣道では相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開すること。

(2) 武道（剣道）に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

(3) 伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

●武道（剣道）の評価規準に盛り込むべき事項（平成23年11月：国立教育政策研究所教育課程研究センター）

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
武道（剣道）の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとし、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって武道（剣道）を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	武道（剣道）の特性に応じて、攻防を展開するための得意技を身につけている。	伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。

●武道（剣道）の評価規準の設定例 ——— は、〔第1学年及び第2学年〕との比較部分

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
① 武道（剣道）の学習に自主的に取り組もうとしている。（愛好）	① 自己の技能・体力の程度に応じた得意技を見つけている。	① 相手の動きに応じた基本となる技が出来る。 ・二段技（小手一胴、面一面） ・引き技（引き小手） ・出ばな技（出ばな面、出ばな小手） ・すり上げ技（小手すり上げ面）	① 剣道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。
② 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。 （公正：自分を律する克己の心を表すものとしての礼儀）	② 提供された攻防の仕方から、自己に適した攻防の仕方を選んでいる。	② 既習技の中から、得意技を見つけ、定着させ、相手との攻防に生かすことが出来る。	② 技の名称や見取り稽古の仕方について学習した具体例を挙げている。
③ 自己の責任を果たそうとしている。（責任）	③ 仲間に対して、技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。	③ 相手の構えを崩し、相手の技に対して応じ技を繰り出すなどの攻防ができる。	③ 剣道に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。
④ 互いに助け合い教え合おうとしている。（協力）	④ 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選んでいる。		④ 運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。
⑤ 健康・安全に留意している。（健康・安全）	⑤ 剣道を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見つけている。		⑤ 試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。

② 評価の在り方

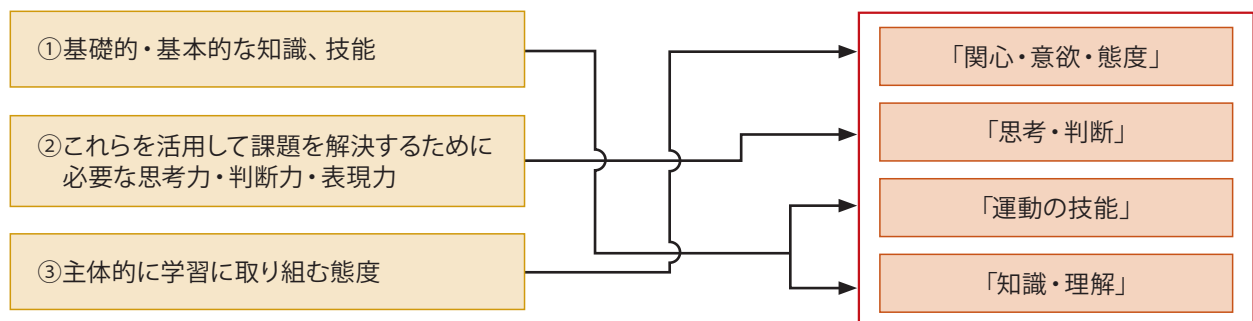
■指導と評価の一体化

●指導したことを評価する

- ①「学習指導要領」に基づいた指導をする。
- ② 学習評価においても学習指導要領等の改訂の趣旨を反映する。
- ③ 学校の実態を踏まえ創意工夫を活かす学習評価を促進する。

●観点別学習状況評価の在り方

- ① 学校教育法で定める学力の3つの要素に合わせ、保健体育の評価は4観点で実施する。
- ②「技能・態度」については教えて育てて評価する。
- ③「知識、思考・判断」については教えたなら忘れないうちに評価する。



●学習評価が次の指導に活かされる

- ① どのような生徒を育てたいのか、めざす生徒像を明確にする。
- ② 何を身に付けさせるか、指導内容の明確化・重点化を心がける。
- ③ 指導内容をどのように指導するのか、指導方法を工夫する。
- ④ 指導の結果どのように身に付いたか、実現状況の把握をする。

●指導の改善……身に付いていなければどのような改善を図るか

- ① 目標レベルは「学習指導要領」に適合したものであったか。
- ② 学習内容を身に付けさせるための指導方法は適切であったか。
- ③ 学習活動に即した評価規準の設定レベルは高すぎたり低すぎたりしていなかったか。

●生徒の主体的学びを高める評価の工夫

- ① 生徒が学ぶべき目標を明確にするとともに、1時間に指導する内容（目標）が2つ以上にならないように配慮する。
- ② 生徒同士による相対評価・生徒自身による自己評価などがあり、評価規準をもとに生徒の実態を考慮し観察や発表、ワークシート・学習カードなどを活用し評価を行う。
- ③ 学習カードは、個人やグループの目標やめあてを明記し、記録の整理・比較（グラフ化）・振り返りなど学習の伸びや課題が明記され評価できるように工夫する。